

令和 2 年度 事業報告書

自 令和 2 年 4 月 1 日
至 令和 3 年 3 月 31 日

一般財団法人 草間彌生記念芸術財団

東京都新宿区弁天町 109

I. 事業報告

○事業の主旨

草間彌生美術館は前衛芸術家・草間彌生が設立し運営している。草間作品および関係資料の展示を通じて草間芸術の普及振興を図り、芸術全般の発展に寄与することを目的とし諸事業を展開している。

今年度は、開館4年目を迎え初の特別展を昨年3月から開催し、1960年代ヨーロッパで活動する作家たちと草間との交流に見る同時代の作家達との類似点と共に、草間の独自性を改めて示す内容だった。ちょうどその時期に新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、緊急事態宣言の発令による臨時休館など大きな影響を受け、特別展が開館できたのはわずか8日間という結果だった。その後も全世界的に新型コロナウイルス感染症拡大は収まらず、東京都の要請や日本博物館協会のガイドラインを参考にしながら、具体的な対処方針および柔軟に判断できる体制をとった。館内の消毒活動・換気・フロアマーカの設置・受付カウンターのアクリル板設置、スタッフの健康・安全管理、来館者の検温・連絡先確認・消毒活動の実施、予防活動の協力依頼と開館状況などの広報周知、収容定員の人数調整などを行い、予防対策を徹底しながら運営に当たった。

特別展に続き7月から収蔵作品（収蔵予定作品を含む）による展覧会を開催したが、コロナ禍の下、通常行っている対面型の講演会・ギャラリートーク・こどもワークショップなどのプログラムは中止し、オンライン上で代替可能な方法を模索・実施した。このような状況下であっても、草間が作品を通じて繰り返し訴えてきた、世界平和と人間愛というメッセージを広く世界へ伝え、多くの方々に現代美術に慣れ親しんでいただく美術館として持続的な運営をめざし活動している。

○施設の概要

平成29年（2017年）10月に開館した当館は、地上5階（展示ギャラリー、ブラウジングスペース、ショップ）、地下2階（収蔵庫）。延床面積727㎡で、階段またはエレベーターで1階から順番に上の階へあがり展示ギャラリースペースへ進み、下りはすべてエレベーターを使用としている。

美術館から徒歩1分の至近距離に事務局を設け、美術館とは密接な連携がとれる環境となっている。

1. 展覧会

今年度は昨年3月から初の特別展を5月まで開催し、7月からは常設企画展の開催により、開館日数は当初の予定では計211日だった。2月頃から世界的に拡大した新

型コロナウイルス感染症の影響により、特別展は開館5日目から臨時休館となり、4月も閉館、5月の緊急事態宣言明け後、会期最終日まで4日間のみ開館し、計8日間の開館という結果となった。7月からの常設企画展は、予防対策として一回の収容定員を70名から40名に制限し、通常休館日である月曜日を特別に開館することにより来館者の受入機会を増やした。その結果、今年度の開館日数は計175日、来館者数は32,357名、1日平均185名となった。

美術館開館日は通常、木・金・土・日曜および国民の祝日で、入場は1日6回転（1回70名）、開館時間は11時から17時半までとしているが、今年度はコロナ禍の下、さまざまな対策を柔軟にとった。

美術館敷地内に入場待機列をつくるスペースなどの余剰が少ないため、混雑緩和と近隣地域への配慮から事前予約制をとり、チケットは美術館の公式ウェブサイトのみで販売という開館以来とってきた独自の方法は、コロナ感染予防対策の一環としても認知されてきた。コロナ禍により5割以上を占めていた海外からの来館者が途絶え、収容定員も約半数に制限し、これまでの状況は様変わりした。今期は当日券を求めて来訪する方が例年より一層増えたことから、2021年2月からチケット販売システムを当日の入館時間の30分前まで対応可能と変更した結果、当日購入が増えほぼ完売状況となった。12月以降は、来館者の多くを国内若年層が占めていた。

展覧会は、当館学芸課が企画し、作品選定、借用依頼、運搬、会場構成、展示、作品リスト・図録の作成などすべてを執り行った。出品作品は絵画、ドローイング、立体作品、体験型インスタレーション、映像、資料など多岐に渡り紹介し、鑑賞を楽しみながら制作の背景や美術史上の意義の理解ができるような展示を心掛けた。これまで通りバイリンガル表記の作品リスト、図録とし、ウェブサイトもバイリンガル対応としている。10月からは美術館の広報手段のひとつとして公式インスタグラムアカウントを開設し、展覧会の様子などを随時バイリンガルにて発信した。コロナ禍の下、代替策としてオンライン上でコンテンツ発信も試みることができ、その可能性を引き続き検討していきたい。また、外部業者へ委託し、館内監視、来館者の受付対応、チケット販売、館内清掃などを行い、美術館の鑑賞環境の向上に協力を得た。

教育普及活動として毎回実施してきた展覧会に関する講演会、ギャラリートークなどは中止したが、インスタグラムを活用し、オンライン上での当館スタッフによるギャラリートークでは展覧会の概要、作品解説、作品制作の背景などを紹介した。同様に子ども向けワークショップについて事前応募制にてオンライン（ZOOMを活用）で2回行い、未就学児から小学校低学年の子どもと保護者が一緒に参加し、当館スタッフが作品を紹介し、それぞれで制作を楽しみながら体験する機会をつくることができた。

展覧会ごとに図録を制作・美術館のショップで販売している。発行は一般財団法人
草間彌生記念芸術財団で日英バイリンガル・A4 変型ハードカバーの体裁。

○第 6 回特別展企画

「ZERO IS INFINITY 『ゼロ』と草間彌生」概要

タイトル 「ZERO IS INFINITY 『ゼロ』と草間彌生」

会 期 2020 年 3 月 5 日（木）～8 日（日）、5 月 28 日（木）～31 日（日）

当初予定：2020 年 3 月 5 日（木）～5 月 31 日（日）

特別協力 ゲーテ・インスティトゥート東京、ゼロ・ファウンデーション（デュッセルドルフ）

プレスレビュー 2020 年 3 月 4 日（水）14：00～17：00

開催日数 8 日間

当初予定：93 日間

入場時間 ①11：00～12：30

②12：00～13：30

③13：00～14：30

④14：00～15：30

⑤15：00～16：30

⑥16：00～17：30

11：00 から各 90 分枠の 6 回転制、2 か月前の 1 日から美術館ウェブサイトのみにチケットを販売。

事前予約・定員 70 名・入替制、当日券はなし。

コロナ禍の対応として 5 月は定員を 70 名→50 名に制限・管理した。

観覧料 一般 1,100 円 小中学生 600 円（税込）

※未就学児は無料。団体割引の設定はなし。

入場者数 1,719 名

1 日平均 約 215 名

図録 A4 変型 64 ページ・ハードカバー・日英バイリンガル

チラシ A4

出品点数 25 点（映像 7 点）

企画趣旨 ニューヨークで活動していた草間は、1958 年、ハインツ・マックとオットー・ピーネによってデュッセルドルフに立ち上げられたグループ「ゼロ」に関連する展覧会に幾度となく参加し、ヨーロッパのアートシーンでも注目を集めた。「ゼロ」のアーティストたちと「インフィニティ（無限）」へと向かう草間の表現には、ひとつのモチーフの反復やモノクロームの

追求など多くの類似点を見出すことができる。国内においてあまり紹介がなされていない「ゼロ」の作品や運動を、草間の作品や当時の映像・写真資料とあわせて紹介する。「ゼロ」と「インフィニティ」という両極の探求によって、大戦の傷を乗り越え、新しい芸術の持つ可能性を示そうとした前衛芸術家たちの軌跡を紹介した。

特別展を開催するもコロナ禍により計 8 日間の開館という結果となり、来館が叶わない多くの方に応えるため、展覧会の様子を編集し、特別コンテンツとして、「展覧会風景の動画」をオンライン上（美術館ウェブサイト）にて公開した。（約 3 分・2021 年 3 月まで期間限定）

参加作家 エンリコ・カステラーニ、ルーチョ・フォンタナ、イヴ・クライン、草間彌生、アドルフ・ルター、ハインツ・マック、ピエロ・マンゾーニ、クリスチャン・メーゲルト、ヘスス・ラファエル・ソト、ヘンク・ペーテルス、オットー・ピーネ、ヤン・スホーンホーフエン、フェルディナント・シュピンデル、ギュンター・ユッカー

入館者数統計

月	開館日数	入館者数	1日平均(名)
3	4日	1,071	約268
4	0	0	0
5	4	648	162
計	8日	1,719名	約215名

出品リスト

No.	作品名	作家名	制作年	材質・技法	寸法（縦×横） ※尺(映像)	所蔵または版権元（記載の無いものは草間彌生美術館所蔵予定）
1	i.k.b.petit bleu（インターナショナル・クライン・ブルー 小さな青）	イヴ・クライン	1957	顔料、紙、接着剤、ボード	21.5×18cm	Fondazione Calderara, Vacciego
2	LIGHT RELIEF	ギュンター・ユッカー	1959	釘、セメント、木	75×75 cm	BSN 新潟放送 （新潟市美術館寄託）
3	煙のドローイング	オットー・ピーネ	1960	すず、紙	50×65 cm	Galerie Ludorff, Düsseldorf
4	始まりも終わりもない	ハインツ・マック	1959	合成樹脂、イラクサ布	110×100 cm	ZERO foundation, Düsseldorf
5	モビール・フェザー 8-14	ヘンク・ペーテルス	1962-67	アフリカハゲコウの羽、フランネル、電動モーター	120×100×25 cm	個人蔵、ロンドン
6	無限の網(1)	草間彌生	1958	油彩、キャンバス	125.3×91 cm	

7	ファリック・ガール	草間彌生	1967	マネキン、詰め物入縫製布、ウィッグ、麦わら帽子、銅板ベース、彩色	189.2×106.7×58.4 cm	個人蔵
8	マカロニ・スーツケース	草間彌生	1965	スーツケース、マカロニ、彩色	36×54×16 cm	高橋龍太郎コレクション
9	無題	フェルディナント・シュビンデル	1977	フォーム、木、彩色	78×50×11.2 cm	Dierking, Zurich & Landau, Frankfurt / Main
10	ヴァイブレーション	ヘスス・ラファエル・ソト	1958	ミクストメディア、キャンバス	61×126 cm	Adolf Luther Stiftung
11	Surface	エンリコ・カステラーニ	1962	油彩、キャンバス、金属	70×80×5 cm	BSN 新潟放送 (新潟市美術館寄託)
12	アクローム	ピエロ・マンゾーニ	1962-63	ポリスチレン、カオリン	81.5×65.5 cm	Fondazione Piero Manzoni, Milan
13	無題	ヤン・スホーンホーフェン	1965	パビエマシェ、板紙、木、彩色	76.5×60×8 cm	個人蔵、スイス
14	空間概念	ルーチョ・フォンタナ	1965	アルミニウム板	86×63 cm	Adolf Luther Stiftung
15	空間の光格子	ハインツ・マック	1961-69	めっき、真鍮	250×200×200 cm	Prof. Heinz Mack
16	凹面鏡のオブジェクト	アドルフ・ルター	1967	凹面鏡、銀、アルミニウム、ガラス、木	84×133×10 cm	Adolf Luther Stiftung
17	光の錠	アドルフ・ルター	1964	鋼、アルミニウム、ガラス	27.3×20.5×6 cm	Adolf Luther Stiftung
18	光の錠	アドルフ・ルター	1964	鋼、ガラス	32.5×30×5 cm	Adolf Luther Stiftung
19	鏡の壁	クリスチャン・メーゲルト	1961/ 2020	鏡、スチールワイヤー、ワイヤーランプ、ネジ	サイズ可変	ZERO foundation, Düsseldorf
20	12 枚の鏡のモビール	クリスチャン・メーゲルト	1964/ 2020	ミクストメディア	サイズ可変	Christian and Franziska Megert
21	キネティック：回転する 3 つに切られた円	クリスチャン・メーゲルト	1966	鏡、木、アクリル、モーター	50×50×12 cm	Christian and Franziska Megert
22	キネティック：回転する 2 つに切られた円	クリスチャン・メーゲルト	1966	鏡、木、アクリル、モーター	50 ×50×12 cm	Christian and Franziska Megert
23	かんむり座	オットー・ビーネ	1965	アルミニウム、真鍮、電球	144×φ95 cm	ZERO foundation, Düsseldorf
24	無限なる天国への憧れ	草間彌生	2020	ミクストメディア	220×125.2×144.3 cm	
25	ナルシスの庭	草間彌生	1966/ 2020	ステンレス製ミラーボール	各φ18 cm	
26	テレ・マック	ハインツ・マック、ハンス・エマーリング (撮影：エドウィン・ブラウン)	1968	デジタルカラービデオ、サウンド、16mm フィルムから転換	45 分 40 秒	Institut für Moderne Kunst Nürnberg, produced by Telefilm Saar GmbH on behalf of Saarländischer Rundfunk and WDR/Westdeutsches Fernsehen
27	生きる彫刻	ピエロ・マンゾーニ	1961	映像	1 分 31 秒	Istituto Luce Cinecittà

28	青の時代の人体測定	イヴ・クライン	1960	映像	2分27秒	Yves Klein Archive
29	0×0=アート 色彩・絵筆をもたない画家たち	ゲルト・ヴィンクラー	初回放送日：1962年6月27日	映像	32分48秒	ヘッセン放送協会
30	アートプログラム KPI オランダ音響・映像研究所		初回放送日：1967年11月16日	映像	3分32秒	VPRO
31	火の絵画を具現化するイヴ・クライン	イヴ・クライン	1961	映像	9分4秒	Yves Klein Archive
32	長い線	ビエロ・マンゾーニ	1960	映像	2分44秒	Istituto Luce Cinecittà

○関連企画

記念講演

予定していた記念講演は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言により中止した。

その代替として、来日予定だったバルバラ・ケンヒェス氏（マネージング・ディレクター/ゼロ・ファウンデーション）と黒沢聖覇（当館学芸員補）の二人が、講演会で議論する予定であったゼロと草間彌生をめぐり、オンライン上（当館ウェブサイト）の特別コンテンツ「往復書簡」という形で4回に渡って相互のやりとりを公開した。

記念講演：『『ゼロ』と草間彌生』（→以下の予定は中止）

日時： 2020年3月5日（木）17:00-18:30

講演者：バルバラ・ケンヒェス（マネージング・ディレクター/ゼロ・ファウンデーション）

建畠哲（当館館長）

黒澤聖覇（当館学芸員補）

場所：ゲーテ・インスティトゥート東京ホール

参加予定：195名（事前告知による申込数）

ギャラリートーク（→以下の予定は中止）

当館スタッフによる日本語のギャラリートークに加え、今回から英語のギャラリートークを各月1回のペースで実施し、特別展の主旨や「ゼロ」作家および作品の特徴、草間との関係性について触れ、スタッフの鑑賞の視点を伝えることで来館者の鑑賞をサポートする。

担当：学芸スタッフ

日時：2020年3月14日・28日、4月11日・25日、5月9日・23日の土曜日
計6回 各回14:15～

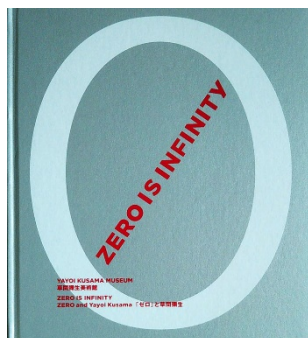
場所：草間彌生美術館2・3F展示室

展覧会図録制作

発行：2020 年 3 月/一般財団法人草間彌生記念芸術財団

体裁：規格外 A4 変型ハードカバー・64P・日英バイリンガル

価格：2,500 円



○第7回展覧会企画

「我々の見たこともない幻想の幻とはこの素晴らしさである」概要

タイトル 「我々の見たこともない幻想の幻とはこの素晴らしさである」

会 期 2020 年 7 月 30 日（木）～2021 年 3 月 29 日（月）

プレスプレビュー 2020 年 7 月 29 日（水）14:00～16:00

開催日数 171 日間

新型コロナウイルス感染症収束の見通しが不明なため、通常休館している月曜日も特別開館し、週 5 日間の開館（休館は火・水曜）とした。

入場時間 ①11：00～12：30

②12：00～13：30

③13：00～14：30

④14：00～15：30

⑤15：00～16：30

⑥16：00～17：30

11：00 から各 90 分枠の 6 回転制、2 か月前の 1 日から美術館ウェブサイトのみにチケットを販売。

事前予約・定員 70 名→40 名に制限・入替制、当日券はなし。

当日券を求めて来館の方が例年よりさらに増えたことから、2021 年 2 月からチケット販売システムを当日の入館時間の 30 分前まで対応可能に変更し来館者の利便性の向上をはかった。

観覧料 一般 1,100 円 小中学生 600 円 （税込）

※未就学児は無料。団体割引の設定はなし。

入場者数 31,709 名

1 日平均 約 185 名

図録 A4 変型 40 ページ・ハードカバー・日英バイリンガル

チラシ A4

出品点数 22 点

企画趣旨 幼時に見た幻覚を描きとめ、その恐怖を克服することから創作活動をはじめた草間彌生は今日に至るまで幻覚や内面世界のヴィジョンを作品化し続けている。本展は、草間彌生が見る多様なヴィジョンをテーマに過去 10 年間に制作した日本初公開及び世界初公開作品のみで構成する近作・新作展。最新の絵画シリーズ「わが永遠の魂」から、1 メートル四方の画面に自己の内面から溢れ出るヴィジョンをひたすら描き続けている最新作群のほか、花が部屋中を覆いつくす幻覚のヴィジョンを実現した参加型の最新プロジェクト《フラワー・オブセッション》、本展のために制作した没入型のインスタレーション作品《無限の鏡の間 - 宇宙の彼方から呼びかけてくる人類の幸福への願い》などを初公開し、恐怖をもたらす幻覚を宇宙や未知の世界への憧れへと変革させる草間ヴィジョンを紹介。

入館者数統計

月	開館日数	入館者数	1日平均（名）
7	2日	431	約216
8	23	4,350	190
9	21	3,253	155
10	23	3,482	152
11	23	3,570	155
12	19	3,529	186
1	18	3,235	180
2	21	4,909	234
3	21	4,921	234
計	171日	31,709名	185名

出品リスト

No.	作品名	作家名	制作年	材質・技法	寸法（縦×横）	所蔵（記載の無いものは草間彌生美術館所蔵予定）

1	永遠に続く女の魂	草間彌生	2019	ウレタン塗装・アルミニウム	51.4 x 300x 10cm, 52.8 x 180x 10cm, 130.4 x 150 x 6 cm, 92.7 x 150 x 11.8cm, 77 x 80 x 9.5cm, 58 x 120 x 10.5cm, 48.7 x 400 x 7.6cm, 51.4 x 200 x 9.6cm, 61.6 x 300 x 10cm, 46.4 x 250 x 9.2cm	
2	無限の宇宙	草間彌生	2014	アクリル・キャンバス	130.3 x 130.3 cm	
3	マンハッタン自殺 未遂常習犯の歌	草間彌生	2010	ビデオプロジェクション、鏡	サイズ可変、1分17秒	
4	横顔は語っている	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	
5	数ある希望を撒き散らしてきた宇宙への憧れ	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	
6	こんなに美しい愛と人生を見つけた私たち	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	
7	名の知れない黒い影が宇宙を飛び歩いているのをあなたは見たことがあるのか	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	
8	人類が創り上げた愛の素晴らしい視覚たち	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	
9	宇宙のすべてに見出した青とオレンジの愛への希望	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	
10	湖の醸し出す多大な青さのすばらしさ	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	

11	私の心をすべて 捧げた宇宙の真 夜中の闇の姿	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	
12	造形の限りなき 美しさを各所に 歌い上げた最高 の私の芸術	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	
13	宇宙に舞ってい る崇高なる魂た ち	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	
14	我々の見たこと もない幻想の幻 とはこの素晴ら しさである	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	
15	我々の知るすべ ての造形色がも たらしたわが心 の無限の讃美	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	
16	100 種類の同じ造 形の姿を醸し出 したその全体的 な美しさ	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	
17	無限の無限の果 てが教えてくれ たもの	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	
18	赤い太陽の孤独	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	
19	平和への憧れ	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100 x 100 cm	
20	無限の鏡の間 - 宇宙の彼方から 呼びかけてくる 人類の幸福への 願い	草間彌生	2020	ミクストメディア	293.7 x 417 x 417 cm	

21	フラワー・オブ セッション	草間彌生	2017/2020	家具、造花、花柄ステ ッカー、花柄テーブル クロス	サイズ可変	
22	天空にささげた わたしの心のす べてをかたる花 たち	草間彌生	2018	塗装・ブロンズ	149 x 180 x 170 cm	

○関連企画

講演会

新型コロナウイルス感染症拡大の先行きが見えず、講師・会場などの確保が困難なため本展に関する講演会は中止せざるを得ないと判断した。

ギャラリートーク

当館スタッフによるギャラリートークはこれまで月 2 回のペースで実施し、各フロアに展示された作品に関する背景や特性、展覧会の概要について説明してきたが、館内で密が発生しないよう今期は対面での実施は中止とした。代替として、当館学芸員によるオンライン上でのギャラリートークを 3 回、当館公式Instagramアカウント (@yayoikusamamuseum) の特別コンテンツとして IGTV で配信した。英語字幕も整えバイリンガル対応とし、来館者だけでなく広く美術ファンへの情報発信とした。

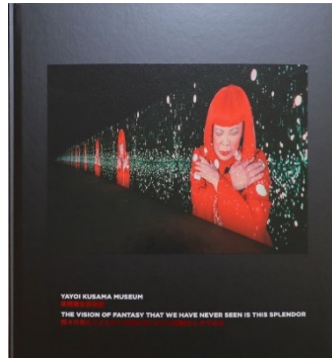
公開日	概要
9 月 25 日（金）	作品《永遠に続く女の魂》について
10 月 3 日（土）	作品《フラワー・オブセッション》について
11 月 12 日（木）	「わが永遠の魂」シリーズについて

展覧会図録制作

発行：2020 年 7 月/一般財団法人草間彌生記念芸術財団

体裁：規格外 A4 変型ハードカバー・40P・日英バイリンガル

価格：2,200 円



2. 教育・普及活動

当館では現代美術の普及と理解を広めるため、子どもから大人まで様々な年齢層に向けた教育普及プログラムを展開している。展示作品への関心を深め、鑑賞後の印象や感想を家族や知人と交換する機会を提供し、草間作品を通して現代美術をより身近に体験してもらうことを目指したプログラムの推進に積極的に取り組んできた。今年度はコロナ禍の下、従来行っている対面型のギャラリートークやワークショップ、スクールプログラムなどは概ね中止とし、それぞれオンライン上で可能なコンテンツ公開の企画・実施を試みた。こどもワークショップ、ギャラリートークは前述の通りオンライン上で発信した。スクールプログラムはこれまで交流のあった大学のゼミの学生を対象に、オンラインでオリエンテーションを行い、その後各自で来館という形式で実験的な取り組みを行った。これまでに作成していたこどもガイド vol.1・vol.2 は英語版を作成・バイリンガル対応を完備した。また、当館学芸課長が講師として実施してきた講座シリーズは、媒体社による既存企画を活用して実施するなど、新たな取組を通じて来館が困難な方への情報発信も積極的に行った。

・一般向けプログラム

【講座シリーズ】

開催中の展覧会に限らず広く草間作品全般を対象とし、各回テーマを設定、作品が生まれた背景、美術史上の意義や他作家との関係性などを考察してきた。

講座シリーズの新たな取組として、日本経済新聞社が主催する「日経アートアカデミア」企画の中で、講演会の開催、事後動画配信のプラットフォームを活用・実施を試みた。講演会については日経新聞社側で、参加者数を絞りソーシャルディスタンスに配慮し実施した。

講演：日経アートアカデミア「草間彌生の世界～60年代ニューヨークから現在まで～」

日時：2021年3月19日（金）18：30～20：00

講師：塩田純一（当館学芸課長）

会場：SPACE NIO（日本経済新聞東京本社ビル2階）

内容：1957年単身アメリカに渡ってからの活動、ネット・ペインティングやソフト・スカルプチュア、インスタレーションやハプニングへの展開を紐解き、集大成というべき最新絵画シリーズ『わが永遠の魂』に至るまでの草間作品の発展とつながりについて講演。

参加者数：21名

動画配信：次年度5月以降に日経新聞社動画サイトから配信予定（有料）

・子ども向けプログラム

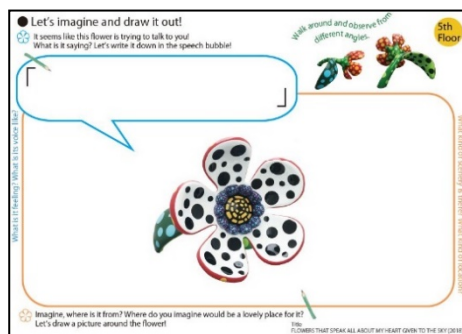
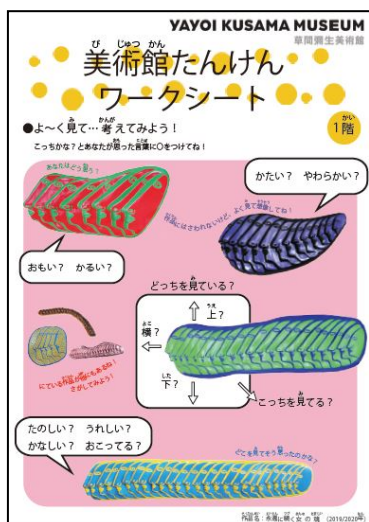
[美術館たんけんワークシート]

来館する子ども向けの鑑賞ツールとして、子どもたちが作品の細部など様々な要素に注目し、作品を見ながら物語を想像できるよう、出展作品の理解と楽しい時間を過ごすことを目的に、展覧会ごとに作成し来館者（希望者）へ配布した。貸出用のバインダー・鉛筆は感染症対策の一環でスタッフがその都度、消毒作業を行った。ワークシートの手渡しはしないよう、据置方式にしたところ子どもに限らず大人の方がシートを取っていく事もよく見受けられた。

対象：小学生以下

用具：ワークシートと鉛筆、クリップボードのセット

配布数：第7回展 日本語370名/英語180名（171日間）



[こどもワークショップ]

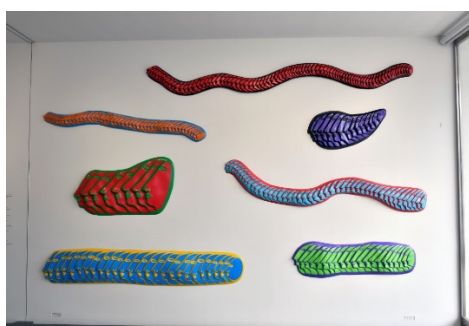
通常は月1～2回、週末の開館時間前に子ども達（保護者同伴）が参加するワークショ

ップを1時間程度で開催してきたが、今年度は密が発生しないよう、対面型は中止し、オンライン上での開催を試みた。当館ウェブサイト、公式インスタグラムアカウントを通じて告知し、プログラムの実施はオンライン会議ツールZOOMを活用、事前にメールで保護者へ連絡したお絵かきシート（PDFデータ）の出力準備を依頼し、少人数の参加者により約40分のワークショップを二回実施した。

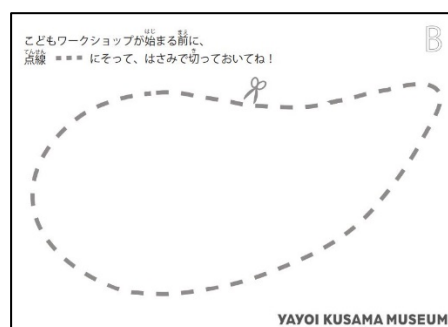
通常行っているプログラムをベースに、遠隔で参加する子どもや保護者とのコミュニケーションのしかたや、作品やテロップなどカメラを通してどう映るかなど試行錯誤を繰り返し実施に至った。参加する子どもの年齢によってもコミュニケーションのしかたを工夫する必要性もあり、他の事例なども学びながら新プログラムとしての確立をめざし、さらに検討していきたい。

内容：「なにに見える？ふしぎな形に絵をかいてみよう！」をテーマに、展示作品《永遠に続く女の魂》を鑑賞し、不思議な形や連続した横顔のモチーフに各自の感想や印象を一巡し聞いた。その後、作品からヒントを得たユニークな形の枠が印刷された用紙に、こども達が好きなものを描いていく創作を行い、発表したり感想を聞いた。

実施日	時間	参加者 人数
2020年9月27日（日）	40分	小学校1～3年生（6名）
2020年11月1日（日）	40分	未就学児（3名）
計 2回		10名



鑑賞作品《永遠に続く女の魂》



参加者にデータで配布したお絵かきシート（一部）

[スクールプログラム]

今年度は小中学生対象のスクールプログラムの実施はすべて中止とした。

この限られた環境の中で、美術教育を学ぶ大学生向けにオンラインと実際の展覧会鑑賞による新たな試みを行った。今まで交流のあった大学教授（教育専門）が当館の子ども向け教育プログラムに興味をもっていただいたことがきっかけとなり、教育専攻ゼミの

授業の一環として、オンライン上で当館のこども向けの教育普及プログラムの概要紹介・意見交換を行った。またその後、各自が来館し展覧会を鑑賞、草間作品および現代美術への理解を深めるというプログラムで、参加者からは事後、感想と共に子ども向けの教育普及プログラムのアイデアなども寄せられ、今後のスクールプログラム開発のヒントとして参考にした。

大学生スクールプログラム

オンライン意見交換：12月16日（水）15:00-15:40（ZOOMを活用）

展覧会鑑賞：1月末～2月（各自で来館）

学校名：早稲田大学 教育・総合科学学術院

参加者：大学3年生6名＋教員1名



オンラインオリエンテーションの様子

[こどもガイド]

子どもの来館が多い夏休みを中心とした一定期間、草間作品や作家についてわかりやすく紹介するこどもガイドを配布した。今年度は、予定されていた東京オリンピック開催による海外からの来館者対応として、既存の vol.1・vol.2 の英語版も作成・バイリンガル対応を整備した。美術館での作品鑑賞の補助、家族や友達との話題提供や、夏休みの自由研究の一助としての活用を視野に入れて作成している。子ども向けのツールとして作ったが、据置方式にすると大人の方も興味をもって手に取る率が高く、今後の活用をさらに考えていきたい。

こどもガイド vol.1

概要：芸術家草間彌生の活動と作品について絵本形式でイラストとテキストで紹介

対象：小学生

仕様：A4 サイズ・二つ折り・カラー

配布数：1100 部（日）100 部（英）

配布期間：2020 年 7 月 30 日～10 月 5 日（日）

2020 年 9 月 10 日～10 月 5 日（英）



・ Kids Guide vol.1 裏表紙・表紙

こどもガイド vol.2

概要：草間作品の代表的なモチーフのひとつ「水玉」を取り上げ、多様に展開する作品を紹介

対象：小学生

仕様：A4 サイズ・観音開き・カラー

配布数：1120 部（日）100 部（英）

配布期間：2020 年 7 月 30 日～10 月 5 日（日）

2020 年 9 月 10 日～10 月 5 日（英）



・ Kids Guide vol.2 中面

3. その他の実施事業

○草間彌生に関する作品や資料の収集・保存および調査・研究

作品・資料の収集

作品の収集

関連資料の収集

- 関連書籍等の収集
- 作品や資料の保存
 - 作品や資料の保存管理
 - 作品や資料のデジタルアーカイブ（計画段階）
- 作品や資料の調査・研究
 - 作品・展示解説を掲載した図録の制作・発行と、関連機関への寄贈
 - 作品に関する評論等の調査・研究
 - 作品研究「草間彌生「集合：1000 艘のボート・ショー」をめぐる考察—1960 年代半ば以降における新たな展開の起点としての—」塩田純一（学芸課長）
 - 作品研究「ゼロ・イズ・インフィニティー「ゼロ」と草間彌生の 60 年代」黒沢聖覇（学芸員補）

4. 著作権の管理

- 権利者の利益はもちろんのこと社会全体の文化創造の活力が損なわれることのないよう、草間彌生の著作権情報の窓口として株式会社草間彌生と協働して管理業務を行う。
 - ・商標登録
 - 日本（登録準備・手続きを行う）
 - 海外（中国は登録手続済）
 - ・著作権侵害案件の対応
 - 日本（主にネットオークションに出品される贋作などの対応）
 - 海外（主に中国などで開催される贋作展覧会などの対応）
 - ・ライセンス事業

5. その他、財団の目的達成のために必要な活動

- その他、財団の目的達成のために必要な活動

[ミュージアムショップの運営、美術館グッズの制作・販売]

※ミュージアムショップの運営状況を検証し、オリジナルグッズの開発による来館者の満足度の向上、および美術館の収益拡大をはかる。

グッズアイテム

- ・オリジナル
 - 展覧会カタログ・ポストカードセット
 - ハンカチ（2 種類・各 3 バージョン）*今年度 1 アイテム商品化
 - お菓子 プチ・ゴーフル缶
 - お菓子 プチ・シガール缶 *今年度商品化

- スカーフ（2種類）
- ・草間スタジオ既存グッズ
- パンプキンオブジェ（2種類）
- パンプキンパース
- パンプキンクラッチバッグ

[博物館登録申請に向けた業務]

東京都教育委員会による博物館登録を目指し、手続きに向けた各種準備を行い、3月の特別展開催のタイミングで博物館登録申請に必要な書類を準備し東京都の担当者とは相談・手続きを進める予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大により担当者の職務が一時的に代わり、財団の寄贈手続きにも時間がかかり、具体的な進展にはつながらず継続業務となった。

II. 庶務の概要

1. 役員

令和3年3月現在

代表理事 業務執行理事	草間 弥生	6名
	建畠 哲	
	大村 一裕	
	島 敦彦	
	中森 康文	
	林 知一	
評議員	伊東 正伸	7名
	渋谷見 彰	
	高杉 恵	
	原井川 恵子	
	前山 裕司	
	松本 透	
	南 雄介	
監事	大森 京太	2名
	加登屋 健治	

2. 組織図

令和3年3月現在

